

## 認定心理士の会から

### 認定心理士の会運営委員会の発足

2017年度9月に、日本心理学会常置委員会の一つとして「認定心理士の会運営委員会」が設置されました。2016年に発足した認定心理士の会ですが、これまで本会と学会との関係性が曖昧であったといえます。学会に認定されたものの学会員とは限らず、その後の研鑽の機会（年次学術大会など）が保証されない認定心理士……。認定心理士資格を得たことのメリットは「特になかった（40.3%）」が多数というアンケート調査結果（認定心理士報告書、2015）も、これでは当然であったように感じます。

認定心理士の会が発足してからおよそ2年間、様々な全国イベントや各地方支部会の企画、オンライン型の交流会などが行われてきました。今後は認定心理士の会運営委員会を介して、学会との連携を一層強めながら本会の活動を展開できます。少なくとも我々認定心理士が自発的

に学び研鑽する機会は増えていくはずで

さらに高瀬堅吉委員長（自治医科大学）のもと本会の中期的課題が明示され、運営委員会内に三つのワーキンググループが設置されました。まず社会連携グループでは、学会年次大会にて認定心理士が発表する機会を得られないか模索します。次のシチズン・サイエンスグループは、認定心理士の研究参加について検討しています。三つ目の資格制度グループでは、認定心理士が認定心理士（心理調査）資格を得るための方向性など資格制度について考えていきます。

これらはいずれも学会内の他常置委員会との相談を要する事柄で、認定心理士の会運営委員会が発足したからこそ検討を始めることができました。いずれも暗中模索の状況ではありますが、会員の皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思ひます。ぜひ、地方支部会幹事等を通して皆様の考えをお伝えください。

（認定心理士の会幹事 田中芳幸）

## 若手の会から

### 若手の会代表幹事就任に際して

心理学ワールド79号でご紹介がありました。若手の会をご卒業になった小川さんに代わり、新たに若手の会の共同代表幹事に就任させていただきました。前田駿太と申します。小川さんと鈴木さんが若手の会を立ち上げて以来、初めての代表交代となります。プレッシャーも感じておりますが、これまでの若手の会が積み上げてきたものをさらに発展させるべく、努めていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

思えば私が若手の会に入会したのは修士課程2年の時でした。そして、この文章を書いている今は博士後期課程3年で、もうすぐ博士の学位を取得しようとしています。この3年間は様々なことで悩みは尽きませんでした。今の研究テーマで学位論文をまとめられるのか、在学中の生活費をどう工面したらいいのか、本当にこれで将来食べていけるのか……など、多くのこ

とに見通しが持てませんでした。これらの悩みがひと通り解決を見た今では、これからのキャリアのことに頭を悩ませています。私が偉そうに言うことでもありませんが、若手の時期は、多くの人にとって、今後の人生に大きく影響する意思決定を多く求められる時期だと思ひます。

このような時期だからこそ、若手同士のネットワークはとても大事です。それを提供できる場として若手の会を運営していきたいと思ひます。私自身、少し上の世代の若手の方のお話を聞いてキャリアの見通しが持てたり、同じ大学院生の若手の研究に刺激を受けて動機づけが高まったりした部分が多くありました。とくに、日本心理学会は心理学の総合学会であるため、様々なバックグラウンドを持った若手が集まりやすいといえます。ですから、自分の普段の考え方と全く違う考え方に会える場を提供できる、そのような会にしていければと思ひます。みなさまのご参加をお待ちしております。

（若手の会代表幹事 前田駿太）